

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL. 16 NO. 1

(通巻60号)

平成元年5月1日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

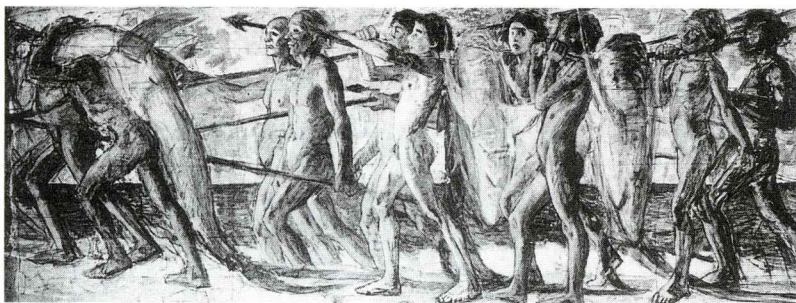
☎0472-42-8311 (代表)

青木 「海の幸」

(重要文化財)

油彩 一九〇四年

(石橋美術館(石橋財団)蔵)



「海の幸」は、青木繁の明治37・38年の館山市布良海岸における制作で、青木の名前を近代美術史上に決定づけた代表的名作です。

明治37年東京美術学校を卒業した青木は、友人の坂本繁二郎、森田恒友、愛人の福田たねと4人で房州布良に写生旅行に行き、ひと夏滞在しました。「海」「海景(布良の海)」などとともに、房州布良海岸における青木の制作は、彼の28年の短い生涯の絶頂期を示すものであると評価されています。

布良海岸での画面のような漁師たちの情景を目撃し、興奮した友人の坂本繁二郎が、話したことが青木の創作意欲を刺激し、この構図を生んだと伝えられています。同行した坂本や福田たねなどもモデルに使われたそうです。

構図を決めるための縦横の直線や図取りした木炭のデッサンの線が残る一見未完成にみえる部分も、青木の芸術的な勘所を押えた描写で、未完成に見えるものの心をとらえてはなりません。あらっばいが、生きた描法で、近代絵画の手法を先取りしていたのだといわれています。(米田)

県民の日
記念事業

千葉県立美術館開館15周年記念特別展

房総と近代美術

'89・4・20(木)～6・25(日)

昭和49年10月23日に開館した千葉県立美術館は、「みる・かたる・つくる」をモットーに総合的に調和のとれた美術館活動の実現を目ざし、近代美術館、地域美術館として

さまざまな事業を展開してきました。

特に「みる」活動としての展覧会事業については、当初から「房総と近代美術」を基本的テーマとしてとらえ、昭

和49年12月には企画展「近代房総の美術家たち」、翌50年1月には特別展「描かれた房総」をそれぞれ開催し、以来郷土の先駆的な美術家の再発見と顕彰を行ってきました。

開館15周年記念の本展覧会は、過去の企画展の実績をふまえ、本館収蔵作品を中心に次の四つのセクションに分けて展覧します。216点に及ぶ作品をどうぞ御鑑賞ください。

◇浅井忠と関係作家の作品◇

近代日本洋画の先駆者浅井忠に関しては、本県ゆかりの美術家として特に注目し、その作品の収集と画業の顕彰に努めてきました。

このセクションでは浅井忠の師、フォンタネージ、そして彼らが感銘を受けたバルビゾン派の作家達の作品、及び浅井忠の弟子達、周辺作家の作品を紹介いたします。

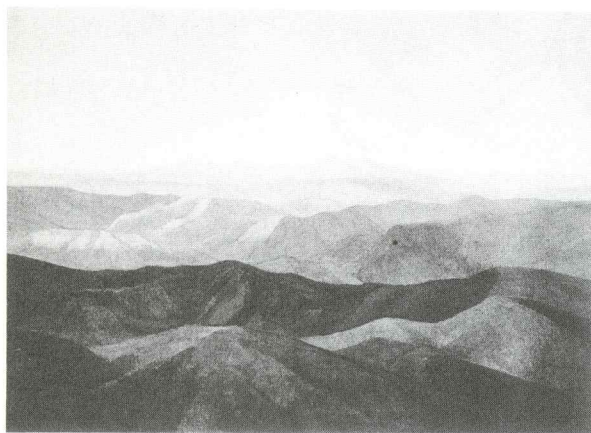
フォンタネージの作品は、本館収蔵の「神女之図」ほか五点、浅井忠は「薬屋根」「フオンテンブローの夕景」「グレイの洗濯場」「ブリヂストン美術館蔵」「グレイの秋」(東京国

◇浅井忠と水彩画の流れ◇

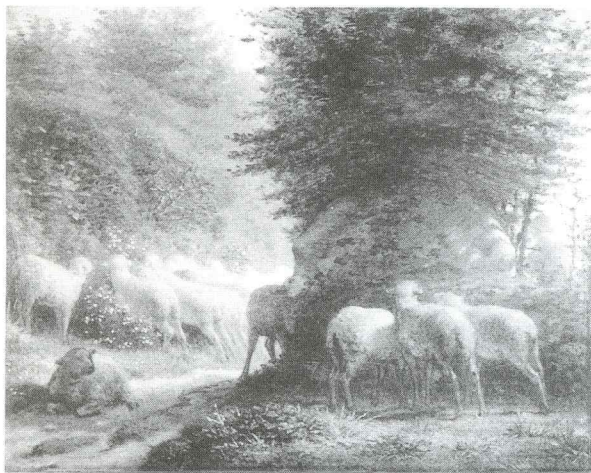
浅井忠は油彩のほか、水彩画にも優れ、多くの後進を指導し、近代日本における水彩画の展開に大きな足跡を残しました。

本館では、水彩画を近代日本絵画の一潮流と考え、水彩画を見つめなおす機会として昭和54年度に特別展「水彩画の再発見」を開催しました。

ここでは、浅井忠の水彩を中心に、明治、大正、昭和の水彩画の歴史において活躍した水彩画家の作品を展示します。主な出品作品は、浅井忠「フオンテンブローの森」他7点、ワグマン「松島風景」、五百



東山魁夷「残照」



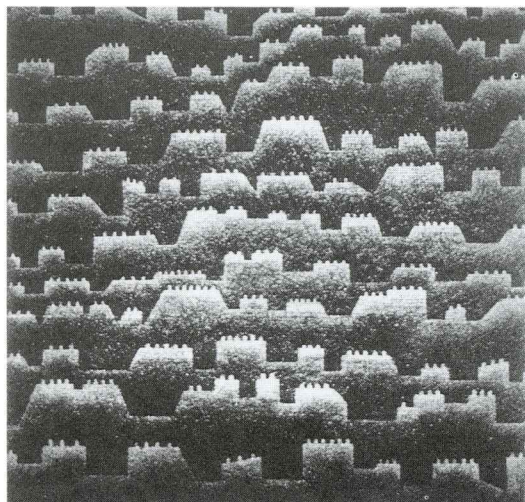
ミレー「垣根に沿って草を食む羊」



浅井 忠「藁屋根」



香取秀真「鳩香炉」



浜口陽三「パリの屋根」

◇房総をモチーフに描いた作品◇

東京に近い房総半島は、豊

城文哉「日光」、河合新蔵「竹林図」、丸山晚霞「海岸風景」、大下藤次郎「紫陽花」、石川欽一郎「赤城淡煙」、その他真野紀太郎、白滝幾之助、三宅克己、石井柏亭、小山周次、相田直彦、赤城泰舒、水野以文、須田国太郎、後藤工志、古賀春江、中西利雄等計25名の作品が展示されます。

かな自然にめぐまれ、明治以降、幾多の画家たちが房総の風土と対話し、数々の名作が生まりました。なかでも青木繁の「海の幸」(6月15日、25日に展示)は明治37、38年の館山・布良にて制作され、近代美術史上における代表的作品で、国の重要文化財に指定されています。

また東山魁夷「残照」(東京国立近代美術館蔵・4月20日、5月21日に展示)は鹿野山九十九谷を舞台に制作される

など、房総の自然は画家の心をとらえ、数々の名作を生んできました。

◇房総ゆかりの美術家の作品◇

このコーナーではその他、浅井忠、石井柏亭、石橋武治、富取風堂、椿貞雄、小堀進、吉岡堅二、若木山、渡辺学、岩崎巴人、寺田政明、三田康、富田通雄など19作家により描かれた房総を展示します。

美術家の作品◇

このセクションでは、15周年をむかえた本館の収蔵品のなかから、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各部門より選ばれた作家の作品を展示します。

日本画は鈴木鷺湖、石井鼎湖、石井林響、富取風堂、島多訥郎、横尾芳月、時田直善、

酒井重人など17作家。

洋画は浅井忠、堀江正章、都島英喜、柳敬助、石井柏亭、原勝郎、石橋武治、鳩川誠一、安藤信哉など15作家。

彫刻は小倉惣次郎、藤野天光、大須賀力、長谷川昂、柳原義達、佐藤忠良、舟越保武、木村賢太郎など13作家。

工芸は香取秀真、津田信夫、鹿島一谷、香取正彦、会田富康、大須賀喬、信田洋、関谷四郎、帖佐美行、蓮田修吾郎、鈴木治平など18作家。

書は鱧松塘、石井雙石、浅見喜舟、大石隆子など12作家。版画は浜口陽三、星裏一、

牛玖健治、深沢幸雄など6作家。

ここでは着実な歩みをつづけている本館の収蔵作品の一端を紹介します。

〇会期

平成元年4月20日(木)～6月25日(日) 午前9時～午後4時30分(入場は4時まで) 月曜日休館

〇観覧料

一般500円(300円) 高・大学生300円(200円) 小・中学生200円(70円) は20名以上の団体料金
6月15日の県民の日は無料 (大久保)

企画展

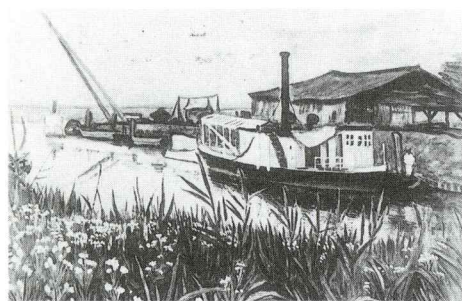
房総の美術家シリーズ(19)

山本不二夫展 '89・7・1(土)～7・30(日)

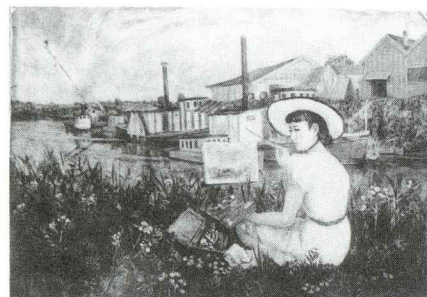
北総の風土性に培われて



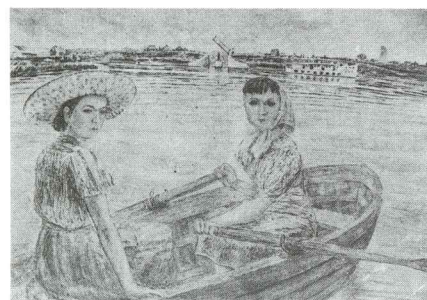
「監督船就航」 昭和11年



「佐原風景」 昭和14年



「美しき佐原河港」 昭和15年



「佐原の跳橋」 昭和16年

山本不二夫・小堀進は、大正11年に、ともに、千葉県立佐原中学校を卒業して、ともに日本の水彩画家となりました。山本は、地元佐原の出身。小堀は、茨城県潮来の出身。ともに、水郷・常総の風土性の中に生を受け、彼等の人格形成期をそこで過ごしました。この風土性は、彼等

二人の画家を生み出し、また、彼等二人の水彩画家としての在り方を決定づけているといえましょう。山本は、後年、故郷を描くことは少なかったが、水彩画を追求し続け、小堀の水彩画は、晩年、故郷に回帰していくように思われます。

今回展は、その山本の画家

としての出発点、水郷・佐原の風土性を具体的に作品化した初期の作品から、日本水彩画会では、信州などに取材地を移してから没年までの水彩画作品を、二科会では、中途油彩画に転じてから没するまでの作品を、それぞれの中央展で発表した作品をもって構成展示し、山本不二夫五十年

の画業を水彩画約30点、油彩画約20点で回顧します。写真にみられる作品は、佐原町内の旅館兼回船問屋に生まれた山本が、昭和8年の佐松線の開通、昭和11年の水郷大橋の開通等により、大きく変化する直前の水上交通によって繁栄をきわめていた佐原の姿を克明なタッチで描いたものであります。今回展では、特に、水彩画家を多く出し、また、優れた取材地と知られる房総と水彩画についてお考えいただくよい機会かと考えます。

山本不二夫略年譜
明治38年(一九〇七)

2月1日、千葉県佐原市に生まれる

大正11年(一九二二) 17歳

千葉県立佐原中学校を卒業する

大正15年(一九二六) 21歳

東京商科大学(現一橋大学)専門部を卒業する

昭和9年(一九三四) 29歳

二科展及び日本水彩展に初出品する

昭和15年(一九三五) 35歳

日本水彩画会会友となる

昭和16年(一九四一) 36歳

日本水彩画会会友となる

昭和25年(一九五〇) 45歳

二科会会友となる

昭和26年(一九五一) 46歳

千葉県展委員となる

昭和30年(一九五五) 50歳

二科会会員となる

昭和40年(一九六〇) 60歳

二科五〇周年記念展で、内閣総理大臣賞を受賞する

昭和42年(一九六七) 62歳

県美術会常任理事となる

昭和48年(一九七三) 68歳

県教育功労賞を受賞する

昭和53年(一九七八) 73歳

勲五等瑞宝章を受章する

昭和59年(一九八四) 79歳

11月2日 千葉市で没する(中地)

新収蔵作品紹介

基金取得

昭和63年度末、千葉県美術品取得基金により高村光太郎彫刻作品八点を取得した。なお、取得作品は次のとおりである。

- ① 薄命児男子頭部（ブロンズ 明38）
- ② 猪（ブロンズ 明38頃）
- ③ 裸婦座像（ブロンズ 大5頃）
- ④ 手（ブロンズ 大7）
- ⑤ 大倉喜八郎の首（ブロンズ 大15）
- ⑥ 十和田裸婦像のための「手」
- ⑦ 十和田裸婦像のための中型

試作（ブロンズ 昭27）

⑧ 野兎の首（ブロンズ 昭27）



十和田裸婦中型試作

新館長ごあいさつ



今年4月1日より館長に就任いたしました竹内です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- 1 県民のための美術館として明るい親しまれる美術館
- 2 生涯学習活動の場として楽しく学べる美術館

- 3 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館
- 4 「みる・かたる・つくる」活動を総合的に展開する美術館

等々を館運営の基本方針に置き事業を展開しているところであります。今年度は、常設展・巡回展の他、特別展3本、企画展3本、全国公募展等を実施することにしております。また、普及事業の一環として、美術講演会3回、美術を語る会10回、各ジャン

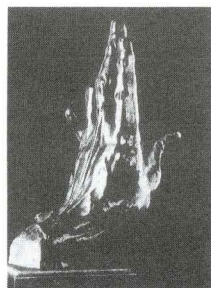
ルによる実技講座を開催することにしております。本館も早や15周年を迎えることとなりましたが、この間房総ゆかりの美術家、あるいは、房総をモチーフとした作品はもとより、日本更には世界の美術にも目を向け、幅広く活動を行い、その充実、発展に努力しているところであります。今後、更に職員一同精進いたし、文化県千葉にふさわしい、すばらしい美術館にいたす所存でありますので、よろしくお願い申し上げます。県民のみなさん方の御来館をお待ちいたしております。



大倉喜八郎の首

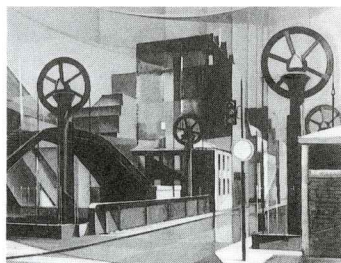


裸婦座像



手

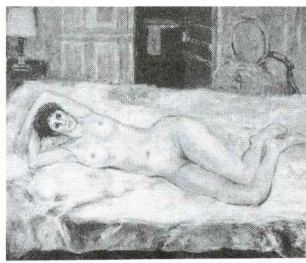
洋画 太田洋三「雨あがりの街」(麻・油彩 昭52)



太田洋三「雨あがりの街」

寄贈

洋画 櫻井慶治「フランスの女性」(麻・油彩 昭62)
太田洋三「中央構造線風景」(麻・油彩 昭63)



櫻井慶治「フランスの女性」

購入

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術館実技講座

●日本画講座

期日 6月13・14・15
17・18・20・21・23
27・28 (10日間)

講師 齊藤 淳氏

定員 20名

内容 持参のスケッチ
から(10号程度)

期日 5月30日(火)

●彫刻講座

期日 7月20・21・22
23・25・26・27
28・29・30 (10日間)

講師 酒井 良氏

定員 15名

内容 石彫/人物・石
仏・静物等

期日 7月6日(木)

●洋画講座(2)

期日 8月8・9・10
17・18・19・20
29・30・31 (10日間)

講師 戸田健夫氏

定員 30名

内容 水彩/静物・人物
等(15号)

期日 7月20日(火)

友の会実技講座
◎洋画入門講座(2)

期日 7月12・13・14・
18・19・20 (6日間)

講師 日和田利正氏

定員 30名

内容 油彩/裸婦
(15号前後)

期日 6月28日(水)

◎陶芸入門講座

期日 7月25・26・
27・28・29・30 (5日間)

講師 鎗田和平日氏

定員 20名

内容 茶碗・花瓶・
皿など

期日 7月11日(火)

時間 美術館講座11
時30分 4時30分

申し込み方法 各講座とも
往復はがきに希望講座名・
住所・氏名・電話番号・
年齢を明記のうえ、美術
館普及課宛へ。
希望者多数の場合は抽選
となります。

ごあんない・実技講座

美術講演会

○第1回

日時 5月27日(土)午後2時

会場 講堂

演題 「近代日本美術にお
ける東と西」

講師 高階秀爾氏(東京大
学教授)

対象 一般 200人

美術を語る会

○第1回

日時 5月20日(土)午後2時

会場 研修室

テーマ 「青木繁の海の幸を
めぐって」

講師 原田実氏(美術評論
家)

対象 一般 30人

○第2回

日時 6月24日(土)午後2時

会場 研修室

テーマ 「すばらしい作品を
描くために」

講師 関 主税氏(日本画
家)

対象 一般 30人

○第3回

日時 7月15日(土)午後2時

会場 研修室

テーマ 「山本不二夫の芸術」

講師 天野三郎氏(洋画家)

対象 一般 30人

なお、いずれの会も無料、
当日会場で受け付けます。



洋画講座会場

日誌抄

2・4 企画展「第3回現代
日本具象彫刻展」
(2・26まで)

2・11 第9回美術を語る会
(講師・後藤良二氏)

2・14 企画展「笹岡了一展」
(3・12まで)

3・4 第10回美術を語る会
(講師・篠崎輝夫氏)

3・31 藤川館長退職
新職員着任

4・20

特別展「房総と近代
美術展」(6・25ま
で)

職員異動

平成元年4月1日付けで、
次の職員が異動しました。

◆退職者

藤川 昶 (館長)

◆転出者

金親 道生 (副館長↓総南
博物館長)

高石 卓 (庶務課長↓学
校保健課庶務係
長)

中村 哲 (学芸課長↓文
化国際課副主幹)

藤川 正司 (学芸員↓文化
課文化財主事)

◆転入者

竹内 一雄 (文化課長↓館
長)

高浦 英一 (福利課厚生係
長↓庶務課長)

小野 禮子 (総南博物館学
芸課長↓普及課
長)

前川 公秀 (文化課文化財
主事↓学芸員)

◆昇格者

米田 耕司 (学芸員↓学芸
課長)